

国際交流センター What's New?

中央大学国際交流センター

留学生合宿セミナー「平和セミナー」レポート

毎年夏、国際交流センターが国際親善・異文化理解を目的に実施している留学生合宿セミナー（「平和セミナー」）。今年と同セミナー史上2回目となる沖縄での開催となりました。

8月5日から8日にかけての3泊4日のセミナーでは、平和学習のための各種のプログラムが行われました。

第2日目はバスで戦跡・資料館を見学しました。先の沖縄戦の激戦地・摩文仁の丘から、「平和の礎」・各県により建立された慰霊碑・黎明の塔・健児の塔を歩き、その後ひめゆりの塔ならびにひめゆり平和祈念資料館に移動し、さらに八重瀬岳野戦病院跡を経て、旧海軍司令部壕跡に至るというスケジュールでした。中でもひめゆり看護隊の悲劇を奇跡的に生き長らえた方々によって建てられたひめゆり平和祈念資料館においては、展示資料の生々しさに、参加した学生もまるで時間が56年間止まったままであるかのような錯覚を抱くほどでした。

第3日目、琉球大学法文学部教授の保坂廣志先生を講師に迎え、「沖縄戦とトラウマ」と題した講演が行われました。この講演に続いて行われたグループディスカッションには保坂先生のご厚意により、先生のゼミ生10名の参加が得られ、沖縄の現状についてより深い理解を得ることができました。

今年はいわゆる15年戦争の発端である満州事変から70周年にあたる年でもあります。その末期における悲惨な戦場となった沖縄を訪れ、平和について考えたことは大きな意味があったのではないのでしょうか。



〈沖縄平和祈念堂に供えられた千羽鶴〉



〈旧海軍司令部壕展示室“住民の苦しみ”〉



〈保坂教授による講演会〉



〈いかに平和をつくるかグループ討議〉

SPUTNIK International Club

インターナショナルクラブ “スプートニク” ニュース Vol.11

国際交流センターが後援する「インターナショナルクラブ “スプートニク”」の活動報告です。

Reports

留学生による文化紹介・中国

日時：2001年6月12日（火）

場所：多摩キャンパス11号館11210教室

概要：中国留学生による自発的な組織「中国留学生会」とタイアップし、中国留学生自身によって母国を紹介してもらうというプログラム。本学の協定校・南開大学東方芸術学部助教授・張永敬先生による講義、中国留学生会役員による中国文化紹介、中国舞踊を紹介したビデオ上映が行われた。質疑応答を経て、プログラム終了後、中国の茶菓子による懇親会が催され、30名以上の参加者がそれぞれに中国に対する理解を深めた。

DANCE PARTY

日時：2001年6月15日（金）

場所：多摩キャンパス11号館11410教室

概要：「ダンスを通じた国際交流」文字通り身体ごとの交流の場となった。

120名近くの学生が、国を超えてひとつの音楽に合わせて踊った。それはまさに壮観の一言であったが、それでいてそれぞれのリズムで踊る姿は、国際交流を掲げる我々にとって、ひとつのモデルを提示するものだった。

Column

＜ “スプートニク” と留学 ＞

“スプートニク”に参加する理由は人それぞれですが、その中でも多いのは「語学（特に英語）の勉強をしたいから」という人と「将来留学したいから」という人が挙げられます。このふたつは互いに関連した理由でしょうし、実際にスプートニクに参加した後に海外へ留学する学生も多くいます。2001年度の執行部からも、2名がこの9月に留学しました。

しかし一方で、“スプートニク”に参加することがそのまま外国語能力の向上につながるか、と言えば難しいようです。英語圏からの留学生は留学生数全体から見ればごく少数に留まっていますし、むしろ英語によるコミュニケーションを不得手とする留学生も沢山います。また英語圏から留学に来ている学生の中にも、自分の日本語能力の向上という目的もあり、英会話の練習相手として近づくことを望まない人もいます。

“スプートニク”の中でも留学生と互いの国の言葉を教え合っている光景は多く目にしますが、どちらかというとそれは仲良し同志のおしゃべりのような趣です。

やはり、まず人と人としての信頼関係が築かれることの方が先のようなようです。

☆インターナショナルクラブ “スプートニク” の詳細は、執行部メールアドレス chuosputnik@hotmail.com までお問い合わせ下さい。また、多摩キャンパス11号館2階の “スプートニク” 掲示板や “スプートニク” ホームページ（中央大学ホームページ <http://www.chuo-u.ac.jp> → 国際交流センター）でも、活動を紹介しています。